

水曜祈禱会 バイブルスタディー & 祈りの課題

コリント教会へのパウロの手紙 I

「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

1 コリント教会への手紙のアウトライン

A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

1 今日の聖書箇所：4章9節～21節

2 今日のポイント：創造主が判断されるから

(1)前回までの復習

パウロは、信徒とも言われるクリスチャンの立場について語りました。信徒とは「キリストに仕えるしもべ」であり「創造主の奥義を管理する者」とであると語りました。当時、他人からの評価や他人と比較しての優劣を気にしていたコリント教会の人々に対して、信徒の本分を伝えました。また、パウロ自身も「何もやましいことはない」と最善を尽くして信仰生活をしている事を語りながらも、「私についての正しい評価は主が最後の日になさるのである」と語り、人生の評価を主に委ねて生きる事を説きました。

(2)コリント教会の信徒VS使徒等の姿

パウロは8～14節の中で、コリント教会の信徒の姿とパウロを始めとする使徒達の姿を対比させました。10節では使徒達の姿を「ばかになった(愚かな者：新改訳)」「私達は弱い」「私達は軽蔑されている」と表現し、コリント教会の信徒の姿を「賢い者(新改訳)」「強い者(新改訳)」「大変尊敬されている」と表現しました。さらに11～12節では使徒の置かれた立場や現状を語りました。着るものもなく、飢え渴き、虐待され、宿もない中、福音を語り続けました。また辱められても祝福し、迫害されても耐え忍び、中傷されても慰めの言葉をかけてきたと実情を語っています。このようにして使徒の実情とコリント教会の人々の姿を対比して書いたのは「あなたがたに恥をかかせるためではなく(14節)」「信仰の子供として諭すため(14節)」だとパウロは語りました。

当時のコリント教会では、自分の主張・自分の立場がどれほど優秀なのか、他と比較して大切なのか、自分がどれほど賢く、強い者かに固執して信仰生活を送っていました。しかし、使徒達は違いました。キリストのゆえに苦難な状況に陥る事を感謝し、その道を黙々と歩みました。そして、16節では「私のように信仰生活をして欲しい」と語りました。

近年、「Not a Fun」という本が出版されました。クリスチャンの中にもアイドルのファンのようにクリスチャンという立場を通して楽しみ・喜び・利益を得ることだけに目を向ける人々もいます(クリスチャンになると、創造主からのたくさんの恵みと導きを頂き喜びや楽しみが増える事は事実ですが、ここでファンという立場の人々はその利益部分だけを享受しようとする人々を示しています)。そのような人々はいつも「クリスチャンとして生きる事は、自分にどんな利益があるのか？」に集中して生きています。そして自分に利益がないと判断する場合には果敢にもクリスチャンである事をやめたり、クリスチャンの共同体から離れて行きます。しかし、パウロが語るクリスチャンの姿はそれとは反対で、この地上でたくさんの苦しみを受け、迫害され、時には利益よりは損害を被るような状態であっても「私の最後の評価は創造主にある」という思いでひたすら歩む姿でした。

(4)単に言葉だけのものでなく、力がある共同体

パウロは4章18節以降で、自分たちが知恵に満ち、華やかな言葉で自分たちを着飾り、すでに様々な事は完璧な姿であると錯覚し、まるで人生の王は自分たちであるかのように生きるコリント教会の人々を牽制しました。誰の干渉も受けまいとするコリント教会の人々に、「主が許してくだされば、すぐにも行く用意がある(19節)」と語りました。そして、もし訪問する事があれば、コリント教会の人々に、語る美しい言葉や装飾された言葉よりは、行いによって、クリスチャンとして生きているかを示して欲しいと語りました。

20節ではさらに直接的な表現で語りました。「というのは、創造主の国は、単に言葉だけのものではなく、そこには力があるのである」。福音を信じるという事は、私たちが上部だけで美しい言葉を話し、柔和で平和なふりをする表面的なものではなく、福音を信じた人々の心の底からを変えてしまう、聖霊様の力(原語的にはダイナマイトのような力)が働くのです。私たちの古い人々を、聖霊様に変えてくださる驚くべき変化の連続がクリスチャンの生活には伴います。

私たちの信仰生活も、言葉だけ、表面だけの生活ではなく、心の底から変えて頂く聖霊様の力に期待し、より頼み生きていきたいものです。

3 分かち合ってみましょう

クリスチャンになると、創造主が私たちの主人となってくくださるという計り知れない恵みをいただきます。苦難や悩み、葛藤が生じて私により頼み、祈り解決へと導いて頂く恵みがあります。ゆえに、なんとかして、この創造主へ栄光をお返しして生きたいという願いが心の中に湧き上がってきます。しかし、時にはそれを忘れ、私にとってクリスチャンの生活は利益になるのか？私の為になるのか？という自分中心に考えてしまう姿があります。私たちの判断基準はいつも「これは創造主の栄光になるのか？」という判断基準で生きていきたいものです。

もし、パウロが創愛キリスト教会を訪問したら、どのような判断がなされるでしょうか。また、私個人にどのような言葉がかけられるでしょうか。

1 教会共同体と記念館の為に

(1) ビジョン達成のために

- ① 「創造をベースに、99%へ福音を」という教会のビジョンが、創造主によって祝福されますように。
- ② 2021年度ビジョン「創造主を信じ、その大能の力によって強くして頂きなさい」の実現の為に。
クリスチャン一人一人が、主に繋がり、主に強められるように。

(2) 教会のため

- ① 教会の本質的な働き—礼拝と伝道の働きの為
- ② 教会の共同体の関係祝福のために
- ③ 教会の霊的成長・成熟のために
- ④ 地域との関係

(3) ノアの箱船記念館のため

- ① ノアの箱船記念館が伝道のために、クリスチャンの信仰形成の為に用いられます様。
- ② ノアの箱船記念館の財政の祝福、ノアの歩道の為

(4) 教役者のために

- ① 堀越葉満主事のため ② 宮崎聖牧師家庭のため

2 教会員の為に

(1) 病にある方々の為に・平安があります様に

(2) 教会からしばらく離れている方の為

(3) 次世代の為に

(4) 今月の祈禱課題の方々のために

3 伝道と宣教の為に

(1) 洗礼準備・聖書の学びをされている方々のため

(2) 受洗後の学びをされている

(3) 伴侶の救いの為

(4) 伝道のためのグループ(感染から守られる様に)

- ① レプトン ② ゴスペル・フラ ③ 卓レシア ④ 女性集会 ⑤ 創愛クラブ ⑥ クラフトカフェ
- ⑦ ノア・パーク

(5) ログス・ホープ号乗船